

著作物の明細】

- | | |
|-----------------------------|--|
| 1、題名 | 連掛虎ノ巻 |
| 2、著作者の氏名 | 遠藤幸助 |
| 3、最初の公表年月日 | 平成22年11月12日 |
| 4、著作物の種類 | 論文 |
| 5、著作物の内容 | メバル釣り場、生態、食性などを釣り人の視点で観察し解説したもの。
それを基にメバル釣りについて道具、釣り方などについて解説した著作物。 |
| 6、この著作物を無断で掲載、転用、複製する事を禁ずる。 | |

迷掛虎ノ巻

(3) 潮回り

大潮の良いポイント、小潮の良いポイント、場所により様々ですが緩めの潮が安定して流れる時が、好条件で群れが浮いた状態に成り易いです。



図15 大潮の日

大潮で激流渦巻く場所には荒い岩礁があります。



図16 小潮の日

小潮になり流れが緩くなると岩礁からメバルが餌を探しに出て来ます。

3章 道具

冬季～春季にかけて瀬戸内海のサビキ釣りでは主に水深は10m~50mの範囲で、潮流は1.5ノット程度までのポイントを狙います。この条件下でメバルの繊細な当たり、小気味良い引きを感じる為に必要な道具について説明します。選定は1竿、2道糸、3錘、4リールの順序で行います。予算制約の有る方でも竿、道糸は可能な限り良い物を選んで下さい。

1、竿

メバル釣りでは初めに竿を選びます。調子、長さ、ガイド、中通し、などメバルサビキ釣りに必要な機能を上げました。

(1) 調子

サビキ釣りでは自然な誘いと繊細な罠引きが何より重要です。市販されているメバル船竿の**0号(軟調)、1号(中調)**が適しています。2号(硬調)は標準的なハリス0.8号に対しては硬く、また罠が暴れ易く成ります。

(2) 長さ

船上でのスペースは限られているので**3m~4m**が適しています。短過ぎる竿はサビキを上げた時、手元で纏れ易くなります。長過ぎる竿は持ちに重りがし疲れますし、穂先の纏れをほどこく時狭い船上では手が届かず扱い難くなります。

(3) ガイド竿、中通し竿

サビキの扱いに不慣れな人や穂先に纏れるのが嫌な人は、**中通し竿3.5~4m**が使い易いでしょう。中通し竿の欠点として、穂先の感度が劣る事、糸の摩擦抵抗が大きく仕掛けの落下速度が遅く、巻き上げが重くなるので、それらの対策がされた高級品を購入して下さい。また

速掛虎ノ巻

使用後は、内部まで良く水洗いし乾燥させた後、専用の撥水スプレーを掛けて糸の滑りを良くして置きましょう。サビキの扱いに慣れた人や穂先の感度を重視する人は迷わず、**ガイド竿 3~3.3m**を選んで下さい。仕掛けの縛りは熟練すると克服出来ます。それでも風の強い日は縛れ易くなるので、ガイド竿+中通し竿(予備)という組み合わせが最も良いでしょう。図17~図20に竿の調子比較写真を挙げたので参考にして下さい。



図17、20号の錘ではリーディングX295-0、300-I、バイオインパクト300が釣り易い曲がりをしています。リーディングX300-IIは曲がりが浅く船の揺れに対し跳ね易く成ります。

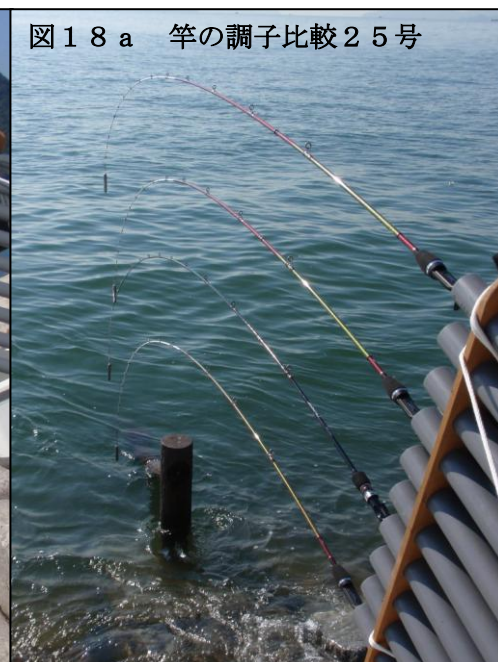
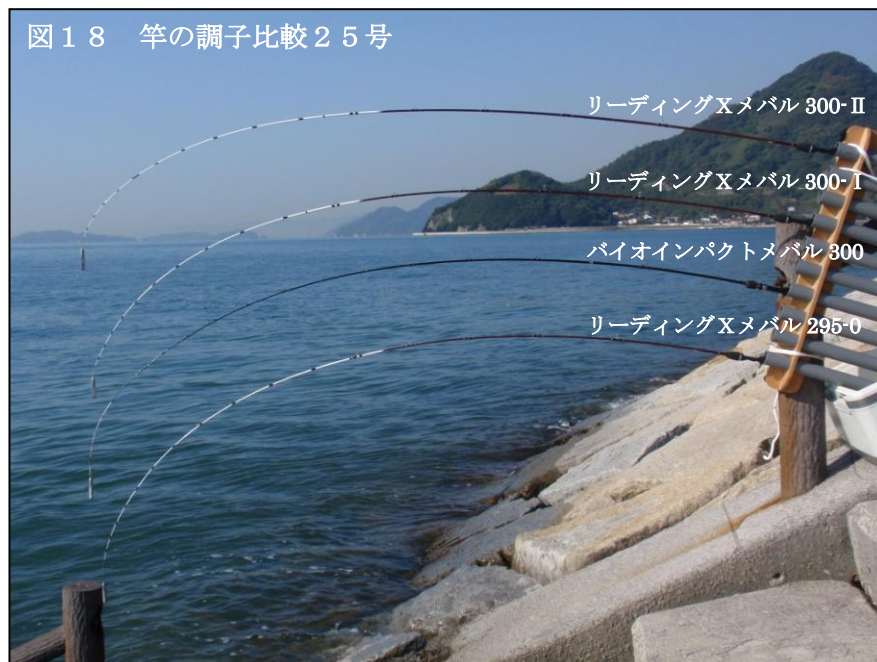


図18、25号ではリーディングX300-I、バイオインパクト300が釣り易い曲がりをしています。リーディングX295-Iは曲がりが深く感度が少し鈍ります。リーディングX300-IIはまだ曲がり浅い様です。

速掛虎ノ巻

図19 竿の調子比較30号



図19a 竿の調子比較30号

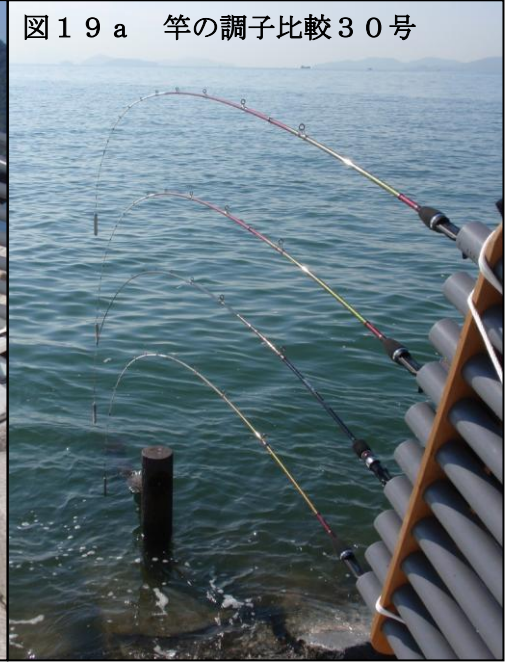


図19、30号ではリーディングX300-IIが釣り易い曲がりをしています。リーディング300-I、バイオインパクト300は曲がりが深く感度が少し鈍ります。リーディングX295-0は曲がり過ぎて誘いもやり難いでしょう。

図20 竿の調子比較40号



図20a 竿の調子比較40号

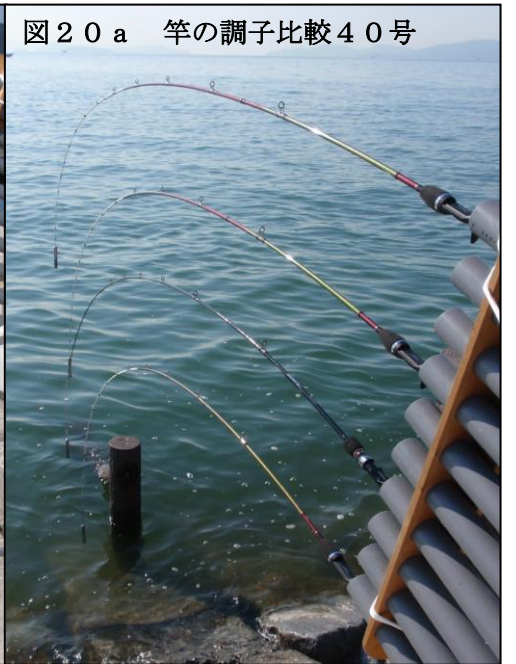


図20、40号ではリーディングX300-IIが釣り易い曲がりをしています。リーディングX295-0、300-I、バイオインパクト300はいずれも曲がり過ぎて竿の性能が死んでいます。

迷掛虎ノ巻

2、道糸

竿が決まれば、それに合わせて道糸を選びます。高強度、低伸度で高感度なPEラインを使用します。最近では編み技術が進歩し0.4号や0.3号が、メバル釣りにおいて実用強度になっています。極細PEラインを使う事により竿0号、1号の錘負荷範囲で水深50mまでを釣る事が出来ます。竿の錘負荷範囲で使用する事により、繊細なメバル竿の感度、調子を生かす事が出来ます。

(1) 竿0号(軟調) PE0.4号推奨、100m-10m 色分け

0.3号を使用する事により一段軽い錘、25→23号、20→18号が使えます。ただし市販品に色分糸が無い。

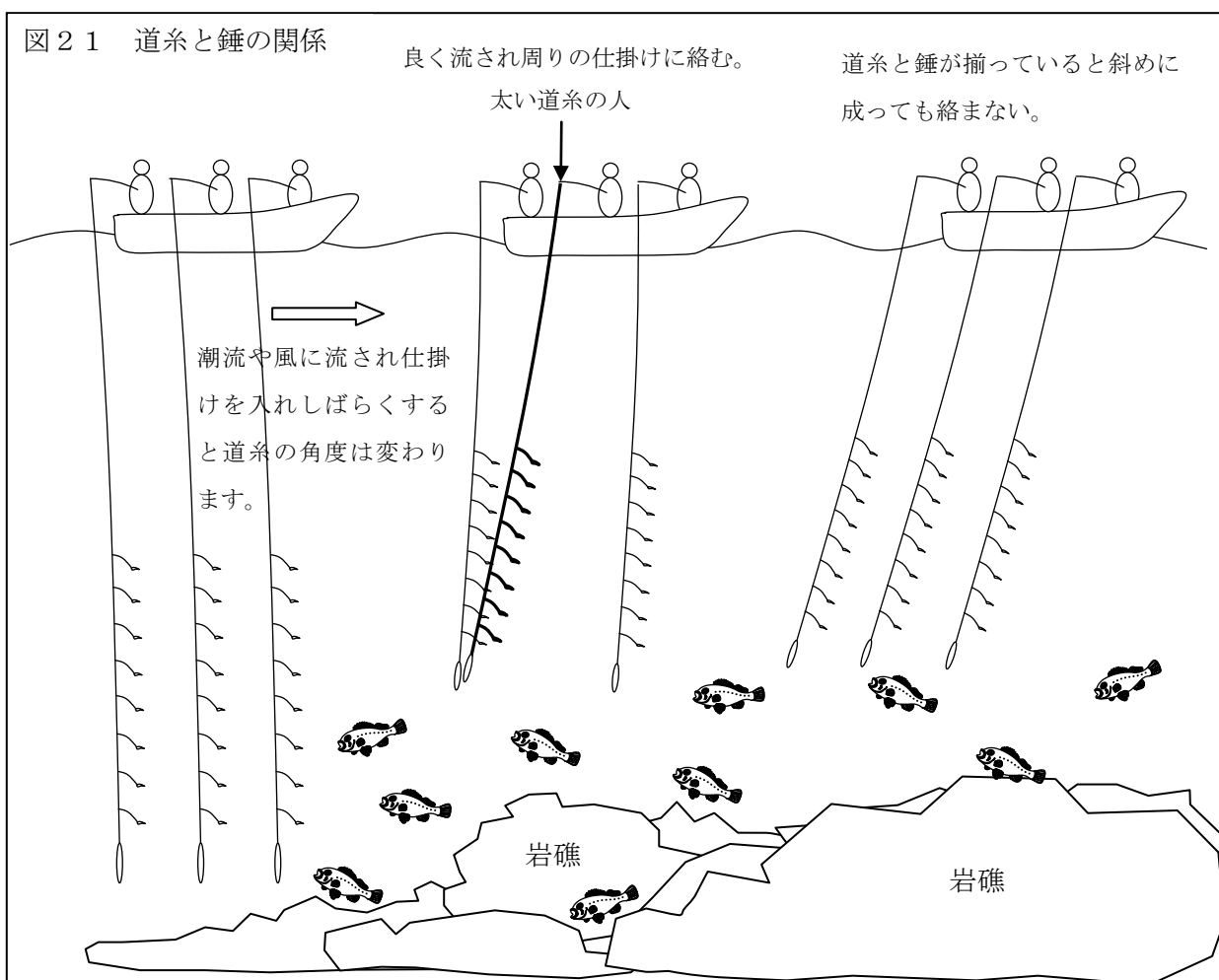
(2) 竿1号(中調) PE0.6号推奨、100m-10m 色分け

0.4号を使用する事により一段軽い錘、30→25号、25→23号が使えます。

(3) 竿の調子が中硬調、硬調の場合でもPE0.6号推奨、100m-10m 色分け

(4) 道糸と錘の関係、

船釣りでは御客様どうしの仕掛けが絡まない様にする為、道糸が太い人は重い錘を使用して頂き道糸の角度が揃う様にします。図2-1に道糸と錘の関係を表しました。道糸が1.5号以上になると錘40号50号にしないと、角度が揃わず纏れる場合が有ります。出来るだけ推奨PEを使用して下さい。サビキのハリスは0.8号なのでPE0.3号でも強度に全く問題は有りません。



速掛虎ノ巻

- (5) 太い道糸、重い錘ではメバルの繊細な当たり、小気味良い引きを感じる事が出来ない上に、竿持ちの手が疲れ、リールの巻き上げも疲れます。
- (6) 新しいPEラインを購入したら巻いて有るプラスチックスプールの上から専用コートスプレーをたっぷり掛けると内部まで良く浸透し滑りが長持ちします。

図22、極細PEラインは鯛ラバ用、テンヤ用、メバリング用の糸を使用します。糸や中通し竿用のスプレーもあります。



3、錘

竿に合わせ道糸を正しく選ぶと錘は竿の適正範囲で釣れる様になり、メバルの繊細な当たり、小気味良い引きを楽しむ事が出来ます。

(1) 錘負荷の適正範囲

0号(軟調)、錘負荷10号～25号

1号(中調)、錘負荷15号～30号

2号(硬調)、錘負荷20号～40号

一般的には上記程度になります。流し釣りでは10号以下の軽い錘は使いません。また2割程度なら錘負荷を越えて使用しても調子に与える影響は少ないでしょう。

(2) 錘の形



図23 錘の形

錘の形には様々な物が有りますが、岩礁を釣るため根掛り難い棒形の錘を使用します。

図23に一般的な錘の形状を上げました。1棒形、2六角形、3吊鐘形、4ナス形、5円盤形、棒形は他の形に比べ根掛りを2～3割り減らせます。

図24に棒形錘の種類を上げて見ました。1自作30cm(この位の長さになると殆ど掛りません、一本釣りに使用)、2天秤



図24 棒形の錘

連掛虎ノ巻

付き錘（天秤を開かずに使用、一本釣りに使用）、3 棒形細長、4 鰭付き錘 上げ下げ時 錘が回転しない、5～8 棒形錘各種、より長い物が掛り難く成ります。

4、リール

(1) リールの選定

連掛け釣法ではリールで仕掛を上げ下げし、誘い続けて釣る為ベイトリール(両軸受型)を使用します。スピニングリールは糸の出し入れの素早い切り替えが難しく、根掛りし易くなります。また下げ誘いや落とし合わせが上手く出来ません。ベイトリールの大きさは100～200 番の小型を選んで下さい。高性能ドラッグは通常は必要有りません。ただし 1.5kg 以上の連掛けには有ると助けになります。(ただし中通し竿は摩擦抵抗が大きくドラッグを調整すると、巻き上げが空回りするのでドラッグはあまり役に立ちません。)

- ・ 35,000 円～50,000 円の高性能リールは、巻き上げがスムーズで釣り易くライントラブルも少なく使いやすいでしょう。リョウガなど鯛ラバ用リールの替えスプールを用意して使うのもお勧めです。

- ・ 20,000 円～35,000 円メバル用として十分な性能が有ります。特にハイスピード巻き上げの物は必要有りません。又カウンターなどの付加機能も不要で道糸の色分けで十分です。基本性能重視で選んで下さい。

- ・ 10,000 円～20,000 円初心者の方は是くらいのリールを準備して下さい。あまり低価格の物はライントラブルや故障が起きやすく、纏れ易いサビキ仕掛けと相まってメバル釣りが楽しめ無いまま一日が終わりかねません。

(2) 下巻き

極細ラインを使用するので空スプールにそのまま巻くと巻き上げ速度が極端に遅く成るので必ず下巻きをして下さい。

図 2 5、下巻きを施した所、極細 P E なので下巻きは多目に巻いて下さい。



図 2 6、糸を巻き終わった所、スプールにピッタリに巻けています。下巻きが多過ぎてスプールエッジを越えてしまうと、ライントラブルの原因に成ります。



連掛虎ノ巻

(3) メカブレーキ

バックラッシュを防止する装置です。錘が着底した時スプールが1回転位で止まる様にネジを回して調整します。釣り初めに確認して置きましょう。

(4) ドラッグ

魚が強く引いた時、スプールを滑らせ糸切れを防止する装置です。これも釣り初めに確認して置きます。メバルサビキのエダスは細いので其れに合わせた調整にすると、どうしても連掛けして巻き上げる時、空回りが起きるので強めの調整にします。図27のリールは鯛ラバ用にオプションの100mmハンドルを取りつけた物ですが、巻き上げが軽くメバル釣りにも最適です。



図27 メカブレーキ、ドラッグ

5、縄れ防止

サビキ仕掛けを上げる度に縄れ、投入合図が出てもほどいている様では、短い時合いに釣果を伸ばす事は出来ません。そこで針数の多いサビキを穂先に縄れさない様にする為の工夫を紹介します。

(1) リーダー

道糸には必ずリーダーを結びましょう。極細PEラインは穂先に絡み易く縄れ防止の目的でリーダーを結びます。またサルカンに直接結ぶと強度が低下し切れ易くなるのでその為にもリーダーが必要です。

PE0.6号 → リーダー 2.5号又は3号

PE0.4号、0.3号→リーダー 2号又は2.5号

リーダーの材質は張りの有るフロロカーボンが絡み防止の目的に合っています。竿の長さ以上必要で4~5mにして下さい。また白色や蛍光色の糸を使用すると、とても見え易く成ります。メバルの喰いに殆ど影響は有りません。リーダーは使用すると癖が付いたり、PEとの結節が弱く成るので毎回交換する様にして下さい。結び方はFGノットなどを練習して下さい。

(2) ゴム管の取り付け

リーダーの先端にはサルカンを結びますが、そこにゴム管を取りつけます。仕掛けを上げた時、穂先ガイドに、軽く当たる様に巻き込むと絡み難くなります。穂先の手前にぶら下げた状態にすると、ゴム管が揺れ回り逆に絡み易く成ります。必ず穂先ガイドに当てた状態にして正しく



図28 縄れ防止 ゴム管

連掛虎ノ巻

使用して下さい。更に仕掛けをつなぐ場合、仕掛けのサルカンを取り直接リーダーのサルカンに結ぶとより効果が有ります。ゴム管の長さは8cmです。これより長過ぎても、短過ぎても効果が落ちます。また道糸に浮き玉を入れる人もいますが此れもブラブラと揺れ絡み付きの原因に成ります。

図29、リーダーへ取り付けます。上段は中通し竿やトップガイドの穴が大きい場合、ソフト玉5号（径5mm）を入れた物。トップガイドの穴の小さい竿は下段の様にゴム管だけで使用します。

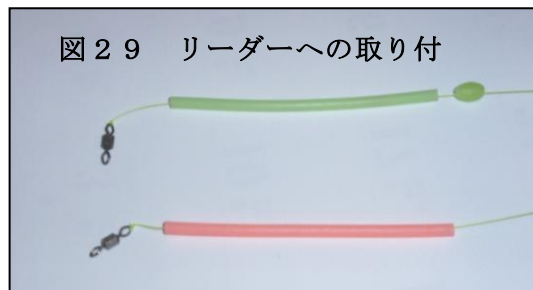


図29 リーダーへの取り付け

図30、ソフト玉にツマヨウジを通し固定します。



図30 ソフト玉の固定

図31、余ったツマヨウジをニッパーで切ります。

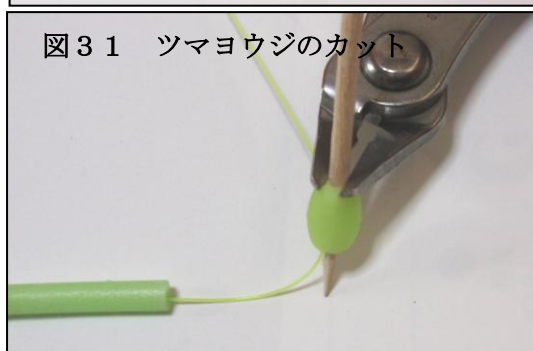


図31 ツマヨウジのカット

図32、ゴム管にツマヨウジの先端を入れ連結します。



図32 連結

図33、ゴム管をサルカンに被せて取り付け完了。



図33 サルカンに取り付け

図34、トップガイドの穴が大きい竿はソフト玉の組み合わせで使用します。

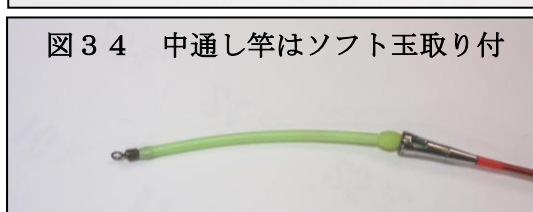


図34 中通し竿はソフト玉取り付け

迷掛虎ノ巻

6、サビキ仕掛け

釣り具屋にはアジ、サバ、イサキ、タイなど様々なサビキ仕掛けがあります。初心者の方はメバルサビキを店員に聞いて下さい。メバルサビキにも糸の太さ、針の大きさ数、皮の色など様々な種類があります。実績が有るのはハリス0.8号、幹糸1.5号、針5号8本、白色と緑色の仕掛けです。サビキ仕掛けは根掛、纏れで消耗します。また時間がたつと喰いが悪く成り交換が必要です。初心者は十分な数を（20丁）準備して下さい。

図35 サビキ各種



7、その他の道具

釣り道具以外にも冬季の船釣りで必要な物が幾つかあります。

（1）服装

冬季は晴天でも風波によるシブキが付き物です。防水性の上着を着用して下さい。また十分に暖かい服装で乗船して下さい。暑ければ脱いで調整出来ますが、無い物は着れません。また体がシブキで濡れたままでは冷えるのでタオルは用意して下さい。

（2）手袋

寒い時期の釣りに手袋は必需品です。しかし手袋をしているとサビキ針がよく手袋に刺さります。ニット製の布地よりレザー製の物は針が深く刺さらず外し易いです。また予備が有ると濡れて冷たくなった時、交換出来ます。

（3）道具箱

冬季は風波によるシブキが付き物です。必ず防水性のバッグ、ケースを用意して下さい。

（4）クーラーBOX

新鮮で美味しい魚は釣り人の特権、最高の状態で持ち帰る為に大きめのクーラー20L~30Lを用意し氷も多めに入れて出かけましょう。